

やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	13 / 1998 / 37
タイトル	八甲田山系のカラマツ赤変
著者名	五十嵐正俊

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

昨年（1998年）8月、顔見知りの八甲田森林事務所の森林官から電話があった。「カラマツに虫が出ました！場所によっては真っ赤です！」と言う。取りあえず、大ざっぱな情報を聞いて、簡単な森林害虫の図鑑と「森林昆虫学」を持って彼女の事務所へ行ってみた。山の被害林分から採集してきた虫を見せて貰い、持参した文献と照合してみた。文献の記載から「カラマツハラアカハバチ」であるらしい。

盛岡在任中は大発生ニュースは聞いていなかったのので、「森林昆虫学」に北海道における調査記録を基にカラマツハラアカハバチの解説を執筆したHさんに照会してみるようにアドバイスして八甲田森林事務所管内の発生状況を把握するために、山に入った。八甲田ロープウェイ付近～下湯ダムへの林道では、ブナ林を伐採してその跡地に植えられたカラマツが各枝の先端部（長枝葉）を残してほとんど丸坊主の状態である。一部では幼虫も残っていたが、すでに繭を造っている。

概況を把握のため、眺望の効く城ヶ倉大橋、八甲田ロープウェイから発生状況を確認しながら、森林官が事業図を片手に発生地の林班番号を確認していく。

一見してブナ林の中に植えられたカラマツの内、最上部のカラマツ林がほとんど褐色で、海拔高の低い部分はカラマツ林の緑が残っていた。

被害地は八甲田森林事務所管内に留まらず、隣接の北八甲田森林事務所管内にも及んでいるのが八甲田温泉付近から確認出来た。

前年度から一部で被害が出ていたのが分かっていたらしいが、まさかこれほど広範囲に広がるとは思っていなかったようだ。今年度（1997）は更に被害区域が拡大して、下湯ダム付近から合子沢、雲谷付近のカラマツにも被害が拡大していた。

カラマツは成長が早いからと戦後の拡大造林政策をとった時代に沢沿いにはスギ、少し高い水分条件の良くないところと海拔の高いところはカラマツと言う具合にやや画一的に植えられた時代があった。

確かに天然カラマツの材質は立派らしいが、成長が早いからと言って、40～50年で伐採したカラマツは製材後捻れたりする欠点があって、最近では無垢材ではほとんど流通していないらしい。ただし集成材の芯に言えば良いのだが、集成材のコストと外材のコストでは比較にならない。したがって売れない。

売れない材ならば、多少虫に食われても何もしないで経過を見つめるのがベターな選択であろう。森林害虫の大発生は規模も壮大でまたとない機会でもある。必要な調査等は十分に行って今後の経過に注目して欲しい。